

入力者氏名	教員所属	科目名	アンケートに対するコメント
川村幸夫	基礎教養	英語II/英語II(多読)	全学平均よりやや低い数値であるが、全体的には満足がいく結果であった。「この授業に関して、予習や復習などの事前準備や復習にどの程度時間をかけましたか」という設問の評価平均が2.5となっていたが、事前準備と復習の指示が徹底していなかったことが考えられる。改善していきたい。
川村幸夫	基礎教養	米文学史	全学平均より高い数値で満足のいく結果であった。「この授業に関して、予習や復習などの事前準備や復習にどの程度時間をかけましたか」という設問の評価平均が4.2であったが、まったくしていない人が0であったので、指示が浸透していたと思う。それ以外はとてもよかったと思う。
川村幸夫	基礎教養	英語IV	全学平均よりやや数値が上で、満足のいく結果であった。「この授業に関して、予習や復習などの事前準備や復習にどの程度時間をかけましたか」という設問の評価平均が3.8で、全学平均より0.8ポイント高かったことがとくによかったと思う。事前学習や復習の指示が徹底された結果である。授業運営がうまく行えたと満足している。
平辰彦	基礎教養	英語II(月3)	この授業はコロナ禍の中、奇数・偶数の半数対面授業の形態で実施された。英語の基礎的な「読む・書く・聞く・話す」の4技能を総合的に身につけることを目的に英語の基本的な文法事項を初歩からわかりやすく解説し、学生たちが授業で理解が不十分なところは毎回、フィードバックできるように質問用紙を配布した。学生からの質問内容については次の授業で受講生全員に向け、補足説明を実施した。テキストの単元が終わるごとに単語の小テストやリスニングテストを実施し、4技能の定着に努めた。自由記述欄に「英語の基礎から学ぶことができて良かった」という受講の感想があったが、今後も英語の基礎学力が身につくように分かりやすい授業展開を目指し、テキスト以外の補助教材や視聴覚教材も使用し、学生たちが積極的に英語を教室で表現する機会をふやしていきたいと思えます。
平辰彦	基礎教養	英語II(月4)	この授業はコロナ禍の中、奇数・偶数の半数対面授業の形態で実施された。英語の基礎的な「読む・書く・聞く・話す」の4技能を総合的に身につけることを目的に英語の基本的な文法事項を初歩からわかりやすく解説し、学生たちが授業で理解が不十分なところは毎回、フィードバックできるように質問用紙を配布した。学生からの質問内容については次の授業で受講生全員に向け、補足説明を実施した。テキストの単元が終わるごとに単語の小テストやリスニングテストを実施し、4技能の定着に努めた。自由記述欄に「英語の基礎から学ぶことができてよかった」「英語の文法や単語の意味をわかりやすく教えてもらった」という受講の感想があったが、今後も英語の基礎学力が身につくように分かりやすい授業展開を目指し、テキスト以外の補助教材や視聴覚教材も使用し、学生たちが積極的に英語を教室で表現する機会をふやしていきたいと思えます。
平辰彦	基礎教養	英語IV(月5)	この授業はコロナ禍の中、奇数・偶数の半数対面授業の形態で実施された。英語の基礎的な「読む・書く・聞く・話す」の4技能を総合的に身につけ、さらに英検やTOEICなどの英語力をはかる試験にも対応できるようなテキストを用い、日常使用する語彙・慣用表現・文法事項を授業で解説し、演習を行い、単元の終了ごとに単語や慣用表現の小テストやリスニングテストを実施した。また授業では、英検やTOEICのハーフ模擬テストなども実施し、問題の解き方や学習方法についても解説した。特に今回のアンケートでは自由記述がなかったが、今後もわかりやすい授業展開を目指し、英語を基礎から学ぶことができ、さらに日常使う英語表現が自由に運用できるような授業を受講者たちと共に双方向で創造していきたいと思えます。今後も授業では、テキストの他に歌や映画などの視聴覚教材も使用し、学生たちが積極的に英語を教室で表現する機会をふやしていきたいと思えます。
浅岡 章一	人間心理	睡眠の心理学II	オンデマンド授業という事もあり、学生の私語への注意に関する項目など、今回の授業方法とマッチしない設問への得点は、全学平均と比較して低くなっていました。オンデマンドの授業で心配していた質問の仕方については、十分な説明があったとの回答が多く、安心しました。専門の授業という事もあり、課題を課すなど授業外での勉強の時間が充分となる様、配慮したつもりでしたが、アンケートの結果からは必ずしも授業外での学習が充分ではなかったようです。課題の量を増やすなど、次年度以降は検討したいと考えています。
浅岡 章一	人間心理	人間心理学基礎	全体的に大変いい評価をいただきました。そのなかで、家庭学習に関する部分については得点が低くなっていました。授業時間外に行うべき課題を明確化し、その量を増やすなど、適切な学習分量となるように、今後は調整していきたいと思えます。
浅岡 章一	人間心理	専門ゼミナールI	全体的に、高い評価となっていました。課題の量も、適切だったようで安心しました。より学生さんが積極的に取り組める内容となる様、工夫を重ねていきたいと思えます。
浅岡 章一	人間心理	専門ゼミナールII	授業外での学習時間に関する質問の項目への得点が、全学平均より多く、学生さんが積極的に課題に取り組んでいることが伺えました。対面での卒論データの取得が難しい状況の中、例年以上に大変な部分があったらと思います。シラバスを読まなかったという学生さんが一定程度いたようです。授業の性質上、シラバスを読んで授業選択をするものではないとはいえ、授業の目的や評価基準の共有は授業内容の理解にも関わってきますので、次年度からは授業内でもシラバスの内容の確認を行っていこうと思えます。

薊理津子	人間心理	心理学統計法（応用）	この科目では、必修科目「心理学統計法」で得た知識をベースに、実際にデータを収集したときに利用する基本的な分析の考え方について学びました。数値に苦手意識を持っている学生にとって辛い授業だったと思います。理解しやすい授業を心がけたためか、授業の分かりやすさ、話し方、教材などの授業内容に関する評価平均は全て4.0を超えていました。また、自由記述欄で、教え方について肯定的感想をもらえたことは嬉しいです。加えて、「授業を通して多くの知識を得ることができた」という質問については4.5と高い評価であったことから、授業責任者として大きな達成感を感じることができました。しかし、「この授業に関して、予習や復習などの事前準備や復習にどの程度時間をかけましたか」という設問の評価平均は2.8であったことはやや残念です。これは、多くの学生は週30分程度しか勉強していないということです。コロナ禍で多くの授業で課題が出ているので、課題に追われて大変だとは思いますが、試験前にだけ勉強するのではなく、平日頃から勉強するようにしてください。
薊理津子	人間心理	心理調査概論	この科目では、心理学の基本となる研究手法について学びました。この科目は他の心理学の科目と深くつながっている内容でしたので、様々な心理学の授業を受ける上で役に立ったと思います。授業の分かりやすさ、話し方、教材などの授業内容に関する評価平均は概ね4.0を超えていました。しかし、「学生の私語を注意するなど、スムーズな授業の運営に努めていた」は3.7と、中点である3よりは高いものの、やや低い評価でした。これは、コロナ禍の授業であったため、ほとんどオンデマンド授業を実施し、私語を注意する機会がなかったことが原因かと思えます。皆さんの授業への取り組みについてみると、「この授業に対する自分の取り組みから考えて、自分はこの授業を評価する資格がある」という設問の評価平均は3.7でした。中点である3よりは高いものの、やや低い評価であったのが気になりました。そこで、「この授業に関して、予習や復習などの事前準備や復習にどの程度時間をかけましたか」という設問の評価平均を見てみたところ、2.5でした。これは、多くの学生は週30分程度しか勉強していないということです。このような授業への取り組み方が、「この授業に対する自分の取り組みから考えて、自分はこの授業を評価する資格がある」という設問の評価平均に表れたのかと思えました。平日頃から勉強に取り組むことで、自身が授業評価をする資格があるという自信につながると思えますので、勉強をする習慣を身につけましょう。
福田 一彦	人間心理	教育心理学	評価の得点に関しては、ほぼ全額平均値と同様であった。問9番「授業内容は分かりやすいものだった」と問17番「学生の私語を注意するなど、スムーズな授業の運営に努めていた」がやや低かったが、9番については（教職の授業であったため）学生が所属する学科で受けている授業の内容とは異なる場合も多く、そのため難易度が高いと評価されたのかもしれない。また、17番については、2020年度は新型コロナウイルス感染症への対応から、この授業はオンデマンド型（録画を視聴する形式）で行われたため、低かったというよりも、質問が授業の実態と対応していないためと考えられる。また、自由記述において「どの心理学的な実験結果も興味深かった。特に知能は処理スピードの違いである事が印象に残っています。」とのコメントがあった。授業をよく聞いていた真面目な学生のコメントと思われるが、残念ながら、授業の内容は「知能は処理スピードの違い、というよりも、同じ刺激に対して毎回同じ反応を出来るかどうかと関連しているらしい」という事なので、授業の内容を誤解しているようである。こうした点からも内容が少々難解であったことがわかる。
福田 一彦	人間心理	心理学概論	評価が平均よりも低かった点についてコメントする。問1番「この科目を履修する時にシラバスをよく読んだ」については、この授業が学科の必修科目であったため、シラバスを読んで履修を検討したわけではない事を反映していると思われる。5番「教科書や配布資料を読むなど、予習・復習や授業に関連する取り組みを行った」についてだが、この点については2021年度から、オンデマンド型での授業の資料を1週間前に公開するように改善をおこなった。学生がそれを利用して予習するかどうかは分からないが。6番「この授業に関して、予習や復習などの事前準備や府句集にどの程度時間をかけましたか」についてだが、この点数が低い点に関しては、学生の努力に期待するしかない。問17番「学生の私語を注意するなど、スムーズな授業の運営に努めていた」については、2020年度は新型コロナウイルス感染症への対応から、この授業はオンデマンド型（録画を視聴する形式）で行われたため、低かったというよりも、質問が授業の実態と対応していないためと考えられる。以下、自由記述を再掲するが、このコメントからはこの授業についてある程度成功だったと考えても良いのではないかと。「難しくもありましたが、専門的知識を学ぶことが出来て、本当に良かったです。今後もこの知識を活用していきたいと思います。」「具体的な図や資料が多く用いられており、とても分かりやすい授業だった」「一年間有難うございました」「分かりやすく話されていたので楽しく学ぶことができました」「たくさんの知識を得ることが出来ました。楽しかったです。ありがとうございました！」

福田 一彦	人間心理	人間心理学基礎	<p>評価が全学平均と開きのあるものについてコメントする。まず、低かった点についてであるが、問1「この科目を履修する時にシラバスをよく読んだ」問4「授業に参加した際は、積極的にノートをとる、質問に答えるなどをした」問6「この授業に関して、予習や復習などの事前準備や復習にどの程度時間をかけましたか」問11「授業は何を目的としているのかが、明確に理解できた」問12「教材・資料の利用は授業の理解に役立った」問13「板書や機器を使った表示文字は見やすかった」問14「専門知識や専門用語の説明はわかりやすかった」問15「授業開始・終了の時間は守られていた」が該当する。問1については、必修科目であるため、シラバスをよく読むことはなかったのだと思われる。問11から問15迄の点数が低い理由は、ある1名の学生の評価が極端に低い（1もしくは2）ためと考えられる。この学生を含めた得点は、それぞれ、4.0, 4.1, 4, 1, 4.0, 4.3であるが、この学生を除くと、それぞれ4.3, 4.4, 4.4, 4.3, 4.5となる。人数が少ない科目（12名履修）であるため1名の学生の評価が最終的な点数に影響しやすいという理由もあると思われる。また、この学生の低評価の部分は、自分自身の授業への取り組みに対する評価に関わる部分が殆どであるため、自分自身の取り組みの弱さを反省しているのではないかと思われる。また授業の開始・終了の時間については、開始時刻より遅れた事はないため、課題が早く終了した場合などに終了した学生から終わりにして良いとした場合があったがそれを言っているのかもしれない。</p>
福田 一彦	人間心理	生理心理学演習	<p>この授業は、自ら研究テーマを設定し、データを取得し、分析し、報告書を作成する事が目的であり、日本心理学会の認定資格である認定心理士（心理調査）の指定科目である。演習科目であり、もともと履修人数は少ないが、2020年度は2名という非常に少ない履修人数であったため、評価の点数も、学生一人一人の評価に強く影響され、平均値もかなり凸凹しているパターンとなっている。全学平均より低かったのは、問8「この授業に対する自分の取り組みから考えて、自分はこの授業を評価する資格がある」問11「授業は何を目的としているのかが、明確に理解できた」問15「授業開始・終了の時間は守られていた」だった。問8については、教員としては、もっと頑張っただけでよかったとしか言いようがない。問11については、この授業の目的はシラバスにも書いてあるし、口頭でもなんでも伝えている。学会の認定資格の必須科目であることも伝えている。それでも分からなかったのであれば、それは学生側の問題と言わざるを得ない。問15については、全く身に覚えのない話なのだが、授業の性質上、夏季休暇中も指導をある程度継続したことを指しているのかもしれない。一方で全学平均よりも得点が高かったのは、問6「この授業に関して、予習や復習などの事前準備や復習にどの程度時間をかけましたか」であるが、確かに講義科目よりも、授業以外の時間への課題設定などが多かったのは事実である。しかしながら、それは、授業の性質上仕方がない。また、その分、学生たちは頑張っていたと思う。</p>
福田 一彦	人間心理	専門ゼミナールⅠ	<p>この授業（卒業論文のための演習）については、全学平均とほぼ同じ点数であった。問1「この科目を履修する時にシラバスをよく読んだ」については、必修科目であることと、ゼミについての説明会や、個別の説明などを何回も行っているため、改めてシラバスを読むことが少ないという事が理由と考えられる。問18「教員の授業に対する熱意を感じた」と問23「総合的に考えて、この授業を他の人に薦めたい」の点数は高かった。卒論の指導のための演習なので、個別指導に近くなるため、熱意はより感じやすいのではなかったかと思う。また、自分で選んだゼミであるので、他の人に薦めたくなくらいでないと困る。ゼミを選んだことを後悔しているのではないことが分かって良かったと思う。</p>
山本隆一郎	人間心理	専門ゼミナールⅡ	<p>この授業は、4年生対象のゼミナールである。学生自身が選択して選んだゼミナールであるため、評価は概して高かった（4.9点）。また、他の授業比較しても、質問6の授業外に時間をかけたことを評価する項目も3.9点と高く、主体的なコミットメントをした上で、一定の満足度が得られていると考えられる。自由記述には、感謝の言葉も頂いたが、専門ゼミナールでの情報の批判的検討や事象についての仮説の設定、実現可能な方法を考え問題解決に取り組む営みの真価は卒業後に確認できるのではないかと思う。卒業生の生活に役立つことを期待する。今後も自分のゼミの専門性を高め、学生さんと研究活動を充実させていきたいと考えている。</p>
山本隆一郎	人間心理	専門ゼミナールⅠ	<p>この授業は、3年生対象のゼミナールである。学生自身が選択して選んだゼミナールであるため、評価は概して高かった（4.9点）。自由記述への回答は特になかったが、5.0点の項目も多く概して、満足度や各自が得られたと考えるものも多かったと考えられる。今後も自分のゼミの専門性を高め、学生さんと研究活動を充実させていきたいと考えている。</p>

山本隆一郎	人間心理	臨床心理学概論／臨床心理学	この科目は2年生の通年必修科目であり、膨大で広範な内容に関して学ぶことに加えて、各種臨床心理学モデルの背景にある人間観など、抽象度も高く、学生さんにとっては難しい科目の一つであると考えられる。しかしながら、100名弱の必修科目の全般的な評価としては4.5点と高く、概ね満足度が高かったと考える。また、コロナ禍での通年オンデマンド授業出会ったものの前年度以前と変わらない評価であったと考えられる。授業についても、全員が迷わず受講できるように設計をしたり、授業の双方向性を保つように努めスプレッドシートを用いたQ&Aを作成し、100程度の質問に答えるなど、オンデマンドの特性を生かした授業に努めた。さて、臨床心理学は、勉強するというより学問の探究を通じて人生を考える学問であると伝えてきたつもりである。復習をしたり日常を学んだことで説明しようとしたりすることはきっと人生の役に立つと信じて授業を行ってきた。授業が終わったから終わりではなく、学びを日常生活に生かしていただきたい。
山本隆一郎	人間心理	人間心理学基礎	この科目は、1年生の必修科目であり、「江戸川大学の学生として」「人間心理学科の学生として」の学びの基礎を少人数制のゼミ形式で行う授業である。全体の平均値は4.8点と高い評価を頂いた。毎年書いていることであるが、この類の少人数制の授業には多く認められることであるが、学生同士の相互作用やインフォーマルな場での交流の良さという点が大きく評価に関係している。しかしながら、コロナ禍でオンライン授業が中心となってしまい、学生間の交流に乏しかったがこうして高い評価を頂いたことは、授業での学び自体の意義を感じてもらえたのではないかと思う。しかし、本授業は、2年制以降の心理学の学び方の基礎が中心でありその真価は次年度以降に認められてくると思う。授業で身につけたことを活かし、心理学の様々な領域の学びを深めてほしいと思う。
関根理恵	現代社会	文化財概論	「授業の開始ギリギリ、ひどいときには授業開始時間を遅れてからmeetのURLが貼られていた。授業開始時間5分前よりmeetに入れるようにしてほしい」とのコメントがありましたが、休み時間であっても、教員は、授業終了後の質疑応答に対応している場合や事務手続き等をしている場合があります。また、体調管理のため、トイレ休憩等の時間も必要です。定刻に開始できるように努めていますが、今後も引き続き努力します。授業開始時間を遅れてからMeetのURLが貼られていたとの指摘ですが、遅れた場合でも、数十秒、長くても2分程度だったかと思います。遅れた理由は、通信障害等の場合もありますし、学生自身の通信環境やパソコン等機器の設定で更新ができていない場合などもあるかと思います。うまく情報が表示されていない場合は、Google chromの左上の丸矢印を押すと、画面を更新できますので、試してみてください。授業や課題に対して、もっと詳しい説明をして欲しいとの意見もありましたが、授業では時間的制約がありますので、口頭で説明できない部分は、資料や自宅課題で補えるようにしています。ぜひ予習、復習の時間に、自宅課題や資料の通読に努めてください。また、アクティブラーニングが苦手な人にとっては、自身で調査をするなどの作業より解説をして欲しいという希望もあるかと思いますが、自身で学ぶ力をつけることは、自身の成長につながりますので、がんばってください。
水嶋 陽子	現代社会	高齢社会論	1時限目の時間であるためか、例年は受講生が少ないが、オンラインとなった今年度は、例年の3倍近い受講生がいました。しかし、皆、授業をよく理解し到達目標に達することができてよかったです。受講生による自己評価では学習時間が短いようですので、次年度はもう少し授業の内容を高度にし、学習時間の必要となる課題の設定を検討したいと思います。
杉山敏啓	経営社会	金融ビジネス基礎Ⅱ／金融基礎Ⅱ	この科目は金融分野の初学者を主たる対象に、金融の利用者の視点から金融基本用語・仕組みを含めて講義形式で学習する科目です。2020年度下期はオンデマンド講義方式で遂行しました。受講者の受講姿勢確認および理解促進の目的で、全回エドクラテス試験を行いました。全回テスト実施により、過年度の対面方式講義よりも理解促進を図ることが出来ました。他方、予習インセンティブの付け方には工夫の余地があると認識致しました。
杉山敏啓	経営社会	コーポレートファイナンスⅡ／コー	この科目は企業価値評価の理論と実践について講義形式で学習する科目です。2020年度下期はオンデマンド講義方式で遂行するとともに、オンライン方式によるリアルタイム演習を2回行いました。受講者の受講姿勢確認および理解促進の目的で、全回エドクラテス試験を行いました。全回テスト実施により、過年度の対面方式講義よりも理解促進を図ることが出来ました。他方、予習インセンティブの付け方には工夫の余地があると認識致しました。
杉山敏啓	経営社会	経営社会演習	この科目は経営社会実習との連続開催により、金融分野の専門知識を学ぶ科目です。ファイナンシャルプランニング技能士3級テキストを輪読するとともに、経済・金融・企業経営に関する時事問題についてディスカッション形式で学びました。FP3級試験は初回受検者の合格率3割以上と、過年度を上回る実績をあげることができました。科目評価は全学平均対比、高い評価をあげることができました。2020年度はオンライン開催回が多く、コミュニケーション時間を要するなど改善余地を認識しました。

杉山敏啓	経営社会	経営社会実習	この科目は経営社会演習との連続開催により、金融分野の専門知識を学ぶ科目です。ファイナンシャルプランニング技能士3級テキストを輪読するとともに、経済・金融・企業経営に関する時事問題についてディスカッション形式で学びました。FP3級試験は初回受検者の合格率3割以上と、過年度を上回る実績をあげることができました。科目評価は全学平均対比、高い評価をあげることができました。2020年度はオンライン開催回が多く、コミュニケーション時間を要するなど改善余地を認識しました。
杉山敏啓	経営社会	専門ゼミナール	この科目は企業経営・コーポレートファイナンスの視点から、金融分野の専門知識を学ぶ科目です。ファイナンシャルプランニング技能士3級の復習を行うとともに、株式投資ゲームを通じて上場企業経営パフォーマンスを把握するための手法を学びました。日経STOCKリーグに3チームで参加し、各チーム毎にテーマを設定し、ディスカッションを通じて、レポートを作成・事務局提出しました。2020年度はオンライン開催回が多く、日経STOCKリーグのレポート作成に際してはゼミメンバー間で貢献度にバラツキが生じる一因となるなど、コミュニケーション時間を要するなど改善余地を認識しました。
吉田 一康	経営社会	企業と法Ⅱ	全般的に、高い評価を頂きまして感謝致します。ただし、その中であって、設問13「板書や機器を使った表示文字は見やすかった」が4.5と相対的に低い評価で、Google Meet画面での「Wordの文字が小さくて見づらかったので、Wordの画面を大きく見せるかWord自体の文字を大きくしてほしい」旨のコメントを頂いた点は反省点です。講義の実施中にも同様の御指摘を頂きまして、途中からWord画面を拡大しました。設問5「教科書や配布資料を読むなど、予習・復習や授業に関連する取組をおこなった」が4.5で、設問6「この授業に関して、予習や復習などの事前準備や復習はどの程度時間をかけましたか」の評価が3.0だった点については、講義内で、次週のテーマの紹介や課題などを与えて、予習や復習を習慣づけなければならないと考えました。受講者に関しては、Google Meetへの遅刻の入室者がややみられましたが、皆、カメラやマイクをオフにして、講義の運営にとっても協力的でした。御礼申し上げます。
和田早苗	経営社会	流行情報論Ⅱ	全面的にオンライン授業となり、想像していたような授業とは異なっていたかもしれませんが、対面授業の時とあまり変わらない評価となっていて安心しました。「授業に参加した際は、積極的にノートをとる、質問に答えるなどした」という設問の評価平均が3.8になっていましたので、オンライン授業で周りの様子が分からない状況であっても、積極的に授業に参加してもらえるような機会を増やしていきたいと感じました。
井上一郎	マスコミ	メディア産業論2	授業評価（設問9-18）の平均は4.5でした。中でも「多くの知識を得た」「専門知識用語の取得」の得点が高かったことは、様々なメディア産業について学ぶ講義特性からはよかったです。能動的に参加してもらうためにグループワークも実施しましたが、アンケートの記述欄では「多くのことを身につけられた」などポジティブなコメントが複数あり安堵しました。
井上一郎	マスコミ	マーケティング戦略論、マーケティング	授業評価（設問9-18）の平均は4.6でした。中でも「教材」「多くの知識を得た」「専門知識用語の取得」などの得点が高かったことは、様々なメディア産業について学ぶ講義特性からはよかったです。アンケートの記述欄では「手法だけでなく理論も身につけられた」とのポジティブなコメントにも安堵しました。
井上一郎	マスコミ	専門ゼミナール	授業評価（設問9-18）の平均は4.8でした。少人数の専門ゼミということもあり評価は全般的に高くなると理解していますが、予習復習の時間が少ないスコアになっているため効果的な予習復習方法について検討していきたいと思います。
井上一郎	マスコミ	マスコミ総合科目Ⅳ	マスコミ総合科目Ⅳ 授業評価（設問9-18）の平均は5.0でした。少人数の科目ということもあり評価は全般的に高くなると理解していますが、予習復習の時間が少ないスコアになっているため効果的な予習復習方法について検討していきたいと思います。
沈 霄虹	マスコミ	メディア学概論	この授業のアンケートの結果は3.8で、平均よりやや低いですが、一つ原因は去年新型コロナ流行の背景のもとで行いことだと思えます。ちなみに、オンラインを実施しながら、対面授業を行うことである。また日本語は母語ではないことや、マスクをしながら授業をすること及び学生の通信状況あまり良くないことによって、授業の内容を聞き取りにくいこともありました。この部分に関して、今後、最大な努力を尽くし、改善していきたいと思えます。初めての江戸川大学の大人数の授業（146）を担当していきまして、大きな責任を感じました。学生の評価は自分にとって一つの良い刺激であり、反省しながら、今後の授業を工夫しながら、進んでいきたいと思います。個別質問から見ると授業前の予習、授業後の復習する学生は非常に少ない。この点について、今後小テストなど手段で、改善してみます。全体的にいうとこの授業は、社会学をベースにして、メディア学の知識を学生に教えています。なるべくわかりやすく丁寧な授業がけたいと思えます。今後授業の進み方などを調整しながら、進んでいきたいと思えます。学生の皆さんも、特に1年生はいち早く高等教育をなれるように、がんばってほしいです。

高田正之	情報文化	システム開発プロジェクト	この科目は少人数のチームごとに与えられた仕様に基づくシステムを開発する実践的な内容で、学生の自主性・積極性の試される場となります。本来ならば、毎回活発に議論したり、動く実物に触れたり、作業調整を通じて弱点を補い合ったりして、経験値を高めると同時に充実した楽しさの味わえる科目のはずです。だからこそコロナ禍の影響をもろに受け、活動が制約されたり、オンラインだと議論しにくかったりして、十分な効果を発揮するのが難しくなりました。それにも拘らず、新しく学んだ作業のしかたや慣れない書類の作成にも協力して取り組み、全体としてはよく健闘したと評価できます。アンケートの結果を見ると、ほぼ全項目で全学平均と同程度なのに「教員の熱意を感じた」「この授業を薦めたい」が0.2~0.3ほど低めです。前者は最初に述べた科目の性格を誤解したと思われるかもしれませんが、後者はコロナ影響と考えられて残念です。
高田正之	情報文化	オブジェクト指向プログラミングII	アンケート結果は、大部分の人が「出席率80%以上」で全学平均とほぼ同じなのを除いて、すべての項目で全学平均を下回りました。特に低い項目を拾うと、「予習・復習」が週30分未満の人が65%もいて、「わかりやすさ」に関する項目が軒並み低く、そして「教員の熱意を感じない」「他の人に薦められない」といった傾向が読み取れます。プログラミングは、多くの実践をこなしてパターンを学ぶとともに未知の問題に対する解決能力やセンスも磨いていく「経験値」が重要で、本質的な難しさがあります。それを少ない予習・復習時間で克服するのは困難です。コロナ対策として多くの科目で課題が出るため、今年度はなるべく毎回の授業時間中に課題提出できるように配慮したのですが、それが裏目に出たようです。結果的に皆さんの学習の妨げになっていたとしたら残念です。「実習が楽しかった」「Javaの知識を深めることができ、難しくも楽しかった」という人もいたのが救いでした。
高田正之	情報文化	卒業研究	一様性のない個別指導であり、対象者が卒業してしまい、参考にする後輩もいないので省略します。この学年は個性的かつ積極的なメンバーが揃い、刺激的で楽しい2年間でした。
浅川陽子	こどもコミュ	こどもと読み聞かせ・絵本	コロナ禍によりオンライン授業を余儀なくされるなか、数少ない対面がある授業ということで、学生の満足度は高かったようです。実際に保育実習室で絵本を手に取り、読みあったり感想を述べあったりする対面交流が、大切な体験学習になったようで、安全にできたことに、ほっとします。でも予習復習にかかる時間が少なかったことがアンケート結果からわかるので、今後はそこに留意したいと考えます。
浅川陽子	こどもコミュ	言語表現の技術	コロナ禍によりオンライン授業が多くなったなかで、この授業は実習系なので、安全に注意しながら対面を数回実施しました。数少ない対面授業という点が学生の満足度をあげたようです。実技や製作ができたことや、実習に役立つ内容だったことに良い評価が得られました。ただ、予習復習にかかる時間が少ない点については、これから対策を練ろうと考えています。
大坂 裕子	こどもコミュ	子どもの食と栄養	アンケート結果より概ね好評な授業が展開できたものと考えています。2020年度はすべてオンデマンド型授業でしたので、なかなか学生の皆さんと交流するのが難しかったのですが、質問などは積極的にメールをくれた学生さんも多く感謝しています。オンデマンド型授業は繰り返し視聴できる利点もあるからか、課題への取組はよいものが多く提出されました。自由記述欄に「いろいろなことが勉強になった」というコメントをいただき、今後の授業にも今回の授業方法を取り入れていきたいと思えます。
熊田 凡子	こどもコミュ	保育者論	アンケート結果は全学の平均値とほぼ類似しているが、自由記述欄によれば、学生が实际的に保育者像を感じたり思い描いたりできる話題が提供されていたとうかがえ、受講学生にとって、意欲が掻き立てられる授業があったと評価できる。ただし、単に楽しい授業ではなく、学生自らが心を動かし学びを深めたいような授業の展開方法を今後検討すべきであると考えます。
熊田 凡子	こどもコミュ	教育・保育課程論/保育課程論	アンケート結果によれば、評価平均が全体的に低く、学生にとっては意欲的積極的に参加する授業展開ではなかったのかもしれないと考えられる。しかし、自由記述によれば、指導案の書き方を学べた点やよかったなど、具体的な実践手法の学びに対する感想が書かれており、受講学生にとっては授業の中での学びの充実は若干見られるため、そうした点は今後も継続しつつ、学生が主体的に学びたい方法や資料の提示の在り方を検討したいと考える。
熊田 凡子	こどもコミュ	保育内容総論（月1限）	アンケートの結果は、ほぼ全額平均に類似し若干低い点があるため、学生が自ら課題に取り組みたいような課題の例示方法や学生にとっての継続的な授業実践を考えていきたいと思う。オンラインでの模擬保育では、準備段階から時間を要したため、発表する際には事前の詳細な留意事項等を学生に示した上で、行えばよかったと省察している。こうした点を見直しつつ、今後の授業展開の方法を検討していきたい。

熊田 凡子	こどもコミュ	保育内容総論（月 4限）	アンケート結果では、全学平均にほぼ類似しており、学生が自ら予習・復習する点が課題であると思う。演習を行う際には、学生の準備段階を予習として位置づけ、また実演後の自己評価を行う点など、授業内容における予習及び復習の位置づけと意義づけを学生に提示した上で行うなどできればよかったのかもしれない。このような点をあらためて、今後の授業実践に活かしていきたいと考えている。
熊田 凡子	こどもコミュ	保育実習指導II	アンケートの結果では、18.教員の授業に対する熱意が3.8、16.話し方は明確が3.7、と若干低いため、オンライン中心での伝達および指導に対する日々の見直しと工夫が必要であったと考えられる。パワーポイントと口頭での説明、及び個別の指導を中心に行っていたが、それだけでは、学生にとっては明確な学びに結びつかなかったと推察される。オンライン上ではあるが、実習に向けての具体的な資料の提示等を行っていたが、要点を明示するような資料配信方法の工夫が必要であったかもしれない。こうした点が反省点として挙げられる。また、学生の自由記述では、言っていることがいつも急であること、という記述があり、授業では学生からの質問の時間を設けてはいたが、それだけではなく確実な伝達手法の在り方を見直していきたいと考えている。一方で、わかりやすくよかった、という記述も見られるため、学生にとっての受け止め方を考慮しつつ、1人1人の学生に応じた目配りができるようにしていきたいと考えている。
熊田 凡子	こどもコミュ	保育課程論（月 5限）	アンケート結果が非常に高く、受講学生の積極的に学ぶ姿勢があったと考えられる。ただし、再履修者3人のための授業(時間割)であったため、結果の妥当かどうかの判断し難い点がある。
熊田 凡子	こどもコミュ	専門ゼミナール	アンケート結果の全体的数値が高く、学生が主体的に学び、学びの充実を得ていたと感じられる。今後も継続していくよう、受講学生とのコミュニケーションを重んじ、授業実践を研鑽していきたい。
村上涼	こどもコミュ	教育相談	この科目では、授業の前後に課題を課していましたが、その課題内容が受講生の実力に適したものではなかったことで、予習・復習などにかかる時間が週30分未満という結果をなりました。簡単に振り返ることができる課題を課したために、受講生の平均的能力よりも簡単すぎる課題を課していたことが、授業評価からよくわかりました。今後は、ヴィゴツキーがいうところの発達最近接領域を意識して、受講生の力より少し上の課題を課すことで、その学習能力を引き出すことを考えていきたいと思っています。引き続き、専門用語を多用せずに平易な言葉で分かりやすい授業を心掛けていきたいと考えています。
村上涼	こどもコミュ	子ども家庭支援の心理学	この授業では、予習や復習にかかった時間が週30分未満の学生が多くみられました。予習や復習に丁寧に取り組んでほしいと考えていましたので、この結果は意外でした。課題内容が簡単すぎたのか、あるいは皆さんの課題内容の捉え方が表層的だったのかもしれません。課題は、いくらでも掘り下げることができます。自分で掘り下げていくと、学びが楽しくなり、時間もそれなりに必要になってきます。今後は、受講生が自ら考えることが楽しくなるような内容で、さらには受講生の力を引き上げるような内容に変更していくことを考えていきたいと思っています。この授業を通して、乳幼児やその保護者を支援する多様な施設のことを知ることで、興味を持ってくれた学生さんもいたようです。興味を持ったところから、自分で調べ、自分の学びや実習、就職活動につなげていってほしいと願っています。
村上涼	こどもコミュ	人間関係	この授業は、2クラスに分かれて火曜日3限と木曜日3限に実施されています。両方の授業評価結果を合わせて回答します。両方のクラスとも予習と復習にかかる時間にばらつきがあり、個人差がかなりあるようです。同じ課題であるのに、週2時間以上かかる人もいれば、週30分未満の人もいます。これは、課題に対する向き合い方の違いが表れているとも考えられます。この科目の課題の内容は、ひとことで簡単に答えられもしますし、調べて洞察して考えて答えることもできます。もちろん、自分なりに調べて考えて書いてくれることを期待していますので、自分なりに洞察してほしいことを明確にお伝えする必要があったと考えています。また、シラバスを前もって読んだ人と読んでいない人いますが、シラバスを読んでおくと、授業を受講するにあたっての見通しが立ち、自分の学ぶことが明確になりますので、是非読んで授業に臨んでください。
村上涼	こどもコミュ	こどもコミュニケーション基礎	meetを使用したオンラインでの基礎ゼミで、学生の皆さん同士のコミュニケーションも対面のようにはいかず、なかなか難しい環境でも学生さんそれぞれが基礎ゼミで協力をしてくれました。基礎ゼミでは、リテラシーに関わる作業をすることが多く、そのためのレポート作成などを主体的によく取り組んでいましたので、一週間の平均学習時間は授業時間も含めて5時間以上となったのかと思います。オンラインでの基礎ゼミでしたので、一人ひとりの話を聞くことができるように個別の時間も作り、皆さんそれぞれの授業への取り組みや学生生活について聞くことができました。反省としては、もっと基礎ゼミ内でのグループ活動を盛り込むことで、学生さん同士のコミュニケーションの場を設ければよかったという点です。レポート課題が大変だったとのコメントをくださった方がいましたが、その課題で培ったリテラシーを他の教科の課題に是非活用してってください。

村上涼	こどもコミュニ	専門ゼミナール	<p>meetでのオンライン授業で、各々が論文を読んでレジユメを作成して発表の形態で授業を進めました。授業評価における予習、復習や一週間の平均学修時間を見ると、2時間未満がほとんどですので、論文を読んでまとめるのにそれほど時間がかかっていないことがわかります。論文の内容は、アブストラクトを読むと概要がつかめてしまうので、出来ればそれ以上の洞察や反論などの自分の考えを述べるまで進められるといいでしょう。「この授業は何を目的としているかが、明確に理解できた」とほぼ全員が回答してくれていますので、専門ゼミの内容を卒業論文へつなげてほしいと考えています。オンラインでの専門ゼミであったために、ゼミ生同士の交流があまりできませんでした。4年生の卒業研究の授業では、ゼミ生同士の討論も入れていきたいと考えています。他者の発表に意見を述べる力、他者の意見を取り入れる力を養っていきましょう。</p>
-----	---------	---------	---